

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600200		
法人名	有限会社 コトブキ		
事業所名	江北紀水苑		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1261番地		
自己評価作成日	令和2年3月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和2年3月24日	外部評価確定日	令和2年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の思いに寄り添い、域外を感じながら生活していただけるような空間づくりを目指しています。一人ひとりのペースで過ごしていただけるように、職員同士が、情報の共有化に努め、連携して行うことで、利用者様の心地よい生活の為に支援を行っています。またご家族様が安心して任せて頂けるように、報告、連絡、相談の中で信頼関係を築き、より良い環境づくり、雰囲気作りを心がけています。

洗濯、食事の後片付けなどの毎日の家事仕事は、利用者様と職員が共同で行うことで、やりがい・生きがいをもって生活して頂けたらと思います。また、園の畑での野菜の収穫や、吊るし柿づくりなど、季節を感じて頂けるような支援も行っています。

毎日、個別の機能訓練や、体操・ゲームなど、身体や頭を使ったレクリエーションを取り入れるほか、天気や季節に応じて、日向ぼっこやドライブ、お花見など、飽きずに楽しんでいただけるように内容を工夫しています。また、ボランティアの方の協力により書道教室を開催したり、月に1回、専門の講師を招いて指導を受けるなど、レクリエーションの活性化に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

代表者の「お世話になっている地域のお役に立ちたい」という思いから設立された事業所である。平成15年の開設で、今では地域との交流も深まり、地域にとけこんでいる。「たのしく」「あかるく」「こちよく」をモットーにして、家庭的な環境を原点として、利用者がその人らしく暮らしていける様にと、手伝っている。入浴、排泄、食事をはじめ、あらゆるお世話や利用者やと接する場面で、常に利用者の尊厳を尊重した支援である。利用者のおだやかな表情に、スタッフとの日頃の良き関わりが窺える。

前回の自己評価や外部評価の結果をもとにして、「利用者一人ひとりが行きたい所へ行ける様な外出支援」をサービス向上の目標とし、その実現のために努力している。これまでも、近所の散歩、外気浴、買い物など日常的な外出の機会は多かったが、さらに利用者の意思を確かめての外出先について再検討をし、利用者の想いに応えている。

健康面や医療面、安全面にも普段から十分に気を配り、家族も安心感を持っている。この時期は特に外来者からの感染防止に万全が期されている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設のコットーである『たのしく、あかるく、こちよく』の理念の下、家庭的な雰囲気と地域交流の中で、利用者様が自分らしい生活を継続できるよう支援しています。問題が生じた場合は、職員間で話し合い、理念に基づいて解決策を探り対応しています。	代表者の「地域のお役に立ちたい」という事業所開設時の思いは、今も引き継がれている。利用者が地域の中でその人らしく暮らし続ける事を願っている。理念を掲示するだけでなく、機会がある毎に、理念を毎日の支援の中で、どう実現しているかが語られている。職員は、理念の実現を意識しながらの日常の支援である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神事では地元区長様より案内を頂き、参加させて頂いています。子供たちによるお祓い行事(もぐらうち)、浮流などは毎年訪問させて頂いています。利用者様は太鼓や笛の音を間近で聞き良い刺激となられています。昔ながらの行事でもあるため、懐かしく思い楽しまれている様子です。また、ボランティアの方の慰問や、近くの高校生の職場体験なども受け入れており、若い方との交流に喜ばれていらっしゃいます。町の文化祭や老人会の運動会などにもお誘いを頂き、参加させて頂いています。	自治会にも加入し、地域とのつきあも極自然に交流している。地域の作業等は職員の勤務体制の面から参加出来ないことが多いが、地域からは理解をもらっている。認知症についての相談や講演依頼には快く応じている。近所から野菜の差し入れがあったり、地域の行事(秋祭り、馬頭観音祭り、もぐら打ち)等を通じての交流等もある。地域から受け入れられ、支えてもらっている面も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、施設でのケアの経験を元に、認知症の方の理解や支援方法について意見交換を行っている。また、町内の老人会からの依頼で、レクリエーション指導などにも行かせて頂いており、地域の方々に向けて、脳の活性化、認知症予防の一助になればと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している運営推進会議では、地域の方々、地域包括支援センターの職員、利用者のご家族様に出席して頂いている。状況報告やその時施設が抱えている問題や高齢者介護に関わるテーマについて、率直に意見を出し合い、より良いサービス提供につながるよう努めている。	年6回の開催で、毎回、有意義な会議内容になっている。利用者の状況報告だけでなく、多様な意見が交わされている。その年度の運営計画、暮らしの中で出来るリハビリ、精神面でのケア、家族交流会、水害時の支援、ひやりはっと、消防訓練、その他多くの事が話題になり、それがサービス向上に結び付いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、町の福祉課の職員と共に意見、情報の交換を行っている。また、実際の困難事例において相談するなど、問題解決へのヒントを頂いている。逆に、入所について相談を受けることもあり、自宅生活が困難な方に対し、入所につなげる際に、町の福祉課を中心に、医療、家族、施設など様々な機関が協力し対応している。	以前より、行政の関係課とは協力関係が出来ている。運営推進会議時だけでなく、日常の業務の中で情報を交換したり、課題解決に向けて相談することも多い。また逆に行政から連絡や相談や要請を受けることもある。研修会の講師や町文化祭への案内をもらう、利用者受け入れの相談等があり、連携が深まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し、帰宅願望の強い方には静止するのではなく、見守りながら、その方の思いに寄り添うように対応をしている。年に2回以上、研修参加や勉強会を行い、全職員が身体拘束についての正しい知識をもって、統一したケアを提供できるようにしている。また、施設内に『身体拘束ゼロ宣言』を提示し、利用者が自由を束縛されることなく、人間の尊厳をもって穏やかに過ごしていただけるような環境の整備に努めている。	グループ本部での研修会、外部研修、事業所独自の勉強会で職員の共有意識を図り、拘束のないケアを実践している。一人ひとりの利用者が抱えている不安や混乱等の要因を取り除くケアである。「鍵をかけない暮らしの大切さ」も理解し、玄関の施錠も無い。外出を好む利用者には、職員と一緒に連れ添い、利用者が自分で納得すれば、また、玄関まで帰ってきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを整備しており、勉強会を通して、全職員が理解を深めるよう努めている。また、入浴時や外出、外泊の前には、アザや傷がないか、身体のチェックを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者をはじめ職員は積極的に研修に参加し、理解を深めるよう努めている。また定期的に関われるグループ本部での勉強会に参加し、問題に直面した時に対応できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、苑の支援方法や入居後の生活について、理解・納得していただいた上で、契約を結ぶようにしている。同じく退去時も説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの更新時には家族様から意見や要望を個別に聞き取りを行っている。利用者様には日常的なコミュニケーションとして、要望を聞くようにしてケアプランや運営に反映させるようにしている。家族交流会では話し合う機会を設け、高齢者を支えるご家族様同士で意見を出し合ったり、情報交換の場として活用して頂いている。また、運営推進会議へもご参加頂き、利用者家族の意見として、より良いサービス提供、施設運営に反映させている。	家族の面会の機会は多い。敢えて利用料支払いを持参方式としている。直接話を聴ける大切な機会でもあり、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。必要に応じ電話での連絡や相談もあっている。病院受診の際の支援、筋力を維持するリハビリ、玄米を取り入れた食事等、運営に反映した一例である。家族交流会でも、家族としての悩み、支える家族自体の高齢化等も話題にのぼり、家族同士のアドバイスもあっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や個別面談を行い、職員の意見や提案を反映させるようにしている。また、軽微な更新や調整、提案については、毎朝行われる申し送りを通して、随時、意見や考えを出しやすい環境を整えている。	全職員参加の全体会議や日常の申し送り等で職員からの提案や意見を聞く場合が多い。外出先の検討、行事の総括、福祉用具に関するレンタル業者への連絡、物品の購入の要請、外部研修会への参加、希望通りの有給休暇と勤務シフトの工夫などその後の運営に反映されている。職員の異動が少なく、再び、職場に復帰した職員もいて、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握した上で、研修参加や資格取得、実績、日頃の勤務態度等を評価しながら、給与、賞与に反映させている。また、職場環境、条件においても面談を行うなどして確認し、全体のバランスを考えた上で、働きやすい環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質やケアのレベルを把握した上で、研修に参加できるよう勤務を組んでいる。また、職員自ら、受講したい研修等があれば、勤務の一環として参加できるように勤務を組み、参加しやすい環境整備に努めている。また、グループ本部主催の勉強会では、職員のレベルに合った研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他のグループホームとの交流研修会を行っている。研修後は交流研修で気付いた点や改善点を明確にし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入院先や自宅等へ伺い本人と面会し、直接、不安や要望また生活歴や趣味嗜好について聴き取りし、安心納得した上で入所して頂くようにしている。情報を基に基本情報を作成し、全職員で情報を共有し、安心・信頼できるような関係・環境作りに努めている。入所間もない時期は、特に密に接し観察し、慣れない生活での不安やストレスを軽減できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族、管理者、ケアマネージャーと話し合う機会をつくり、家族の要望、不安等を聴き、施設の理念、方針を説明し、安心信頼できる関係作りに努めている。施設(職員)とご家族が協力して、それぞれの役割を明確にし、利用者様を支援できるような関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にの情報を収集し、その方の状態と性格、家族との関わり方を把握したうえで、その方に今、必要と思われるケアを提供できるかを見極める。グループホームだけに絞らず、その方にとって、最も望ましいサービス、または環境を本人、ご家族と共に検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食事の配膳、後片付けなどの家事を、身体状態や認知面など利用者様のレベルに応じて職員と共に行って頂くことで、生きがいにつながればと期待し役割分担して支援している。また、『吊るし柿づくり』などを通して、昔の暮らしぶりや習わしを教わりながら、利用者様を敬い接することで、お互いに支え合い、信頼関係を気づけるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者様の状態報告書や苑だより(新聞)にて暮らしぶりについて報告している。急な状態の変化等があった場合は、その都度連絡し、家族と共に支えていく関係作りを心掛けている。病院受診や、理美容については家族との交流の場としてとらえ、負担になりすぎない程度、協力して支援している。家の役割と施設の役割を明確にし、共に支えていけるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れてしまわないように、場所を当ホームに変えて、面会という形で関係性を継続していただくように支援している。また、散歩やドライブ、買い物など、利用者様が過ごした地域への外出を行い、かつての馴染みの店や、知り合いに出会う機会を作るように努めている。	利用者がこれまで過ごしてきた人間関係や社会的環境についての情報を把握している。友達や近所の方の訪問時には居室でゆっくりと過ごしてもらったり、電話や手紙での連絡を取り持つなど、つながりが継続出来る支援を行っている。地域の店で買い物をしたり、何時も利用していた美容室に出かける人もいる。かつて出かけた事があるバルーン見学や近くの梅林での花見もある。団子を創りながら、彼岸の様子を思い出す人もある。家族の協力で一時帰宅をしたり、親戚と旅行をした利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全体で利用者同士の関係性の把握に努め、相性を考えた上で、座る位置などを考慮しながら、交流を支援している。なかなか利用者同士で交流しようとされない方へは職員が声をかけをしながら、孤立しないよう、またお互いに支え合えるような関係作りを目指して支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、何かの折には、相談いただくようにお伝えしている。また、野菜や果物を苑に持ってきて頂くなど、退所後も良好な関係性を継続できている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様が落ち着いて会話のできる時間帯に、リラックスして会話をしながら、本人の思いを引き出すように心がけている。また、ケアプランの更新時には、必ず、本人・家族の要望を確認し、入居者様にとって、良いと思われる支援方法を検討している。入所者様別に担当職員を決めて、個別的に観察し、把握するように努めている。視点が偏ってしまうことを防ぐために、定期的に担当職員を変更するようにしている。	利用者の心に寄り添いながら、どのように暮らしたいか、何をしたいか等の把握を丁寧にやっている。言葉やつづやき、行動等からも本人の真意を推しはかっている。利用者の担当制をとっており、その人をじっくりとアセスメントできる、責任をもって関わられる等の利点があり、利用者の思いや意向を汲み取った支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に前任のケアマネージャーより情報提供を受け、入所の際には、ご家族、ご本人様より生活歴、生活環境、暮らしぶり、趣味、嗜好品などの基本情報を収集している。入所後の生活で、環境の変化によるストレスが最小限で済むようなケアの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや経過記録などから、職員一人一人が意識的に利用者の情報を収集する姿勢で取り組んでいる。また、職員間で連携を図り、入所者の状態について情報を共有し個別的なケアを統一して行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人ひとりに担当職員を設け、ケアマネージャーは担当者を含め、ご家族、利用者様、医師の意見を取り入れながら、カンファレンスを行い介護計画書を作成している。定期的に評価、見直しを行い、本人、ご家族と移行や課題について話し合い、現状に沿った計画書で支援している。	利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていけるための、利用者本位の計画である。設定期間を入居当初は1ヶ月毎、その後の利用者の状態により、3ヶ月後、6ヶ月後と様々に対応している。毎月のモニタリングにより、臨機応変な見直しもある。全職員で意見交換を行い、具体的で実現可能な介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様ごとの経過記録には、体調や精神状態の変化、出来事について、細かく記録に残している。また『入所者専用』『全体』の2冊の申し送りノートを活用し、ケアの実践、結果、気づきについて職員間で情報の共有に努めている。工夫しながら対応し、介護計画書の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の協力体制に応じて、24時間対応の往診専門の医療機関に移行し、それぞれのレベルやニーズに合った柔軟な支援体制の確立に努めている。その他、行政手続きや病院受診、衣服やおむつ等の調達ににもできる限り協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に届けられる配布物や運営推進会議を通して、地域行事等のお知らせを頂き、積極的に参加するようにしている。日々の生活の中でも衣服等の買物にでかけたり、またボランティアの浮流の訪問等もあり、地域の中で楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望されるかかりつけ医と連携して、日常的な健康管理ができるよう支援している。定期受診(往診)時や、体調不良時には健康状態を報告・相談し、医師より指導を受けている。通院については原則はご家族にお願いしているが、緊急時ややむを得ない場合は、職員が同行するなど、ご家族と協力して支援している。	利用者や家族が希望する病院での受診であるが、入居前の協力医でもあるかかりつけ医の希望が多い。受診の際に家族が付き添う時は、現況報告書を持参してもらい、主治医に日頃の健康状態が伝わるようにしている。職員が付き添う場合は、診断結果を家族に報告している。協力医とは何時でも相談できる関係にあり、定期的な往診もある。歯科医は訪問歯科の診療を支援して、利用者職員も助かる一面もある。スタッフに看護師2名もいて、健康面や医療面について家族も安心している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送り時に状態を報告し、その他申し送りノートを活用し職員全体で情報の共有化に努めている。入所者の心身状態を把握に努め、異変があれば看護職員に相談し、適切な指示を受け、医療機関と連携して、利用者様を適切に支援できるように備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護情報提供書を提出している。入院中も随時連絡をとったり、面会に行くなどして情報収集に努めている。入院時の医師からの病状説明などは、できる限りご家族と共に病状説明を受け、退院後の対応について医療と連携し、当ホームで無理なく行えるように相談し、指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針に基づき、入居契約時には家族に説明を行っている。健康状態に変化があれば、家族と話し合う機会を設定し、重度化した場合や、終末期のあり方について、家族の希望を段階的に確認するようにしている。運営推進会議で地域の方に協力を得るなど、チームでの支援に取り組んでいる。	入居契約時に「重度化した場合及び看取り介護の実施に関する指針」を丁寧に説明し、話し合いを持っている。最期までの看取り介護の事例は無いが、看取りの段階までに入った利用者もいた。家族とも状況の変化に伴い、段階を踏んで話し合った。家族の心も揺れ動き、最終的には医療機関での治療希望があり、病院での最期の見送りとなった事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時における対応についてのマニュアルを整備している。他機関で主催される福祉施設向けの応急手当講習会にも積極的に参加している。また、施設内でも定期的に勉強会も行っており、実際に発生した場合に対応できるように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害に対しての緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。火災訓練は夜間、日中を想定して通報・避難・誘導訓練を年に2回、入居者様や地域の協力者と共に行っている。自動火災報知設備、火災通報装置、スプリンクラー、消火器等の消防設備の点検も訓練に併せて行っている。また、自動火災報知設備と火災通報装置の連動工事も完了しており、火災発生時に速やかに通報できるように備えている。また、前年夏の水害においては、比較的被害を受けにくい立地ではあったものの、避難場所や経路などについて、地域の方々から情報を頂き、実際の災害時の対応に備えている。	年に2回、火災を想定した避難訓練を実施し、消防署の指導や近隣住民の協力も得ている。利用者も一緒に避難を体験している。自動火災通報装置も整備されており、近隣住民宅も含まれている。誤作動ではあったが、その時は近隣住民が一番最初に駆けつけていて、思わぬ訓練となった。 地震、水害等の自然災害に備えたマニュアルもある。昨年の大雨の際は、事業所のすぐそばにある溜池からの災害を心配し、地域に早めに相談している。その時は職員の勤務体制も非常時に応じたものであった。非常食、飲料水はきちんと備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては規定し、周知徹底している、本人が自分の思いで選択できるような言葉かけを心がけている。一人一人の人間性を尊重し、プライバシーを損ねないように、また傷つけないような言葉遣いと気配り、対応を徹底している。また、グループ本部で開かれる研修にも参加し、学習することで、知識を深め、全員が意識して対応するよう努めている。	利用者一人ひとりのその人らしい尊厳をある姿大切にし、人権を尊重することを、すべての支援の基礎にしている。誇りやプライバシーを損ねる言葉かけをしないようにと全職員が留意している。接遇にあたっては、利用者との距離感を大事にしている。トイレや入浴支援での言葉かけ、利用者との会話、職員同士の話のやり取りなど留意している場面は多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりに『寄り添うケア』を心がけ、同じ目線で自分の思いを打ち明けやすい雰囲気、環境作りに努めている。また、共同生活の中でリラックスし、できる限り満足して暮らせるように言葉かけを行い、本人の思いや希望を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り入所者様の生活リズムやその日の体調、気分に合わせて、本人の意向を尊重し、無理なく過ごしていただけるよう支援している。基本的な一日の流れは決まっているが、柔軟に変更できる体制となっている。レクリエーションの参加や入浴も強制することなく、入所者様の思いを尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の好みで決めて頂き、気候に合った服装であるかどうかの見守りを行っている。理美容については、ご本人あるいはご家族の希望により、馴染みの店に行けるように支援している。外できない方には、地域の美容室より出張でお願いし、きちんと整容を保てるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、料理の下ごしらえ、味見、配膳や後片づけ、食器洗い等、できることを職員と一緒にやっている。また畑で採れた野菜で何を作るかなど、入居者様と共に考えを出し合っている。あくまで家事に意欲のある方の意思を尊重し、強制することはしていない。食事メニューは入居者様の食の好みや栄養のバランスを考えて、季節を感じられる様にできるだけのものを提供している。また、マンネリ化や偏りを防ぐために、献立表作りは1週間ごとに職員が持ち回りで作成するようにしている。	職員も利用者と同じテーブルに着き、利用者をそれとなく見守りながらの支援で、おだやかな食事風景である。献立は利用者に食べたいものを訊ねながら当番職員が一週間交代で作成している。ホームの畑で一緒に収穫した野菜も味わっている。献立は、管理栄養士の指導、助言を受けており、高齢者向けの美味しい食事である。利用者は自分の出来る範囲で、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、食後の食器拭き等職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、成分表を使用し献立を作っている。食事摂取量、水分摂取量は24時間を通してチェック表にて管理している。水分摂取を拒まれる方においては、タイミングや好みなどを把握し、個人別の目標摂取量を目安に支援している。また、ご家族との外出中に食べられたものや量、間食についても聴取し、状況の把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体レベルに応じて、口腔ケアを行っている。状態に応じて、訪問歯科治療を受け、口腔内を清潔に保てるよう支援している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄管理表にて、排泄パターンを把握し、個人のレベルに合わせて、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の無いオムツ使用の方においても、尿間隔や仕草などから判断して誘導し、できるだけトイレで排泄して頂くように支援している。	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンが把握されており、その人に合った支援が行われている。排泄チェック表の工夫もある。日中は、適切な誘導でトイレでの排泄をめざし、紙パンツやパット類の交換枚数が減った利用者もいる。夜間は紙おむつの方が熟睡出来ると言う人もあり、それなりの対応支援である。自立に近い利用者もいるが、さりげない見守りや言葉かけでの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	持病を考えた上で、個人ごとに一日の水分摂取量を設定して、チェック表にて管理をしている。繊維質の多い食物を積極的に摂取したり、水素水を飲用して頂くなどしている。体操や歩行運動、腹部マッサージ等を行い、できるだけ身体を動かすよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として一日おきの入浴を行っているが、毎日入浴支援は行っているため、希望によっては毎日でも入浴できる。寒い日は拒否される方も多く、そういった場合は無理強いすることなく、声掛けやタイミングを工夫している。また、浴室暖房や足浴などで、冬でも気持ちよく入浴できるようにしている。	利用者や家族から、入浴習慣や入浴についての意向を確かめており、本人と相談しながらの入浴支援である。入浴時間や入浴順に特に決まりは無く、ゆっくりと入浴してもらっている。入浴時間帯も本人の希望によるが、夜間帯の入浴は職員配置の都合で、遠慮してもらっている。入浴時の羞恥心についても職員はよく理解している。衣服の着脱は出来るだけ見守っての支援である。冬場はヒートショックにも十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯時間は決めておらず、昼寝するものも本人の意思に任せている。入所時にそれまでの生活パターンを聴取し、昼夜逆転などの大きな乱れのある方には、徐々に生活リズムを整えて、安眠・休息が十分に確保でき、心地よく生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録、申し送りノートに記録し、全職員が把握するように努めている。日頃の行動、排便状況、血圧等を観察、記録し、担当医師に薬の調節をお願いしている。臨時薬の処方時にも、一目でわかるように熱表に記入し、内服一覧表も整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付け、掃除、洗濯などは、入所者様個人の状態と、その時の気分に応じて、役割分担して行っている。ドライブや買物などに出かけたり、気分転換を図っている。依頼された作業について、皆様、意欲的に取り組まれているのを感じる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のレクリエーションの時間を活用して、天気の良い日にはドライブをしたり、近所を散歩したり、日常的に外出し、気分転換を図っている。また、衣類の買い足しが必要な場合など、職員と一緒に外かけて選んで購入できるような支援を行っている。	目標達成計画票に「個人が行きたい所へ行けるような外出支援を目指す」事を挙げており、ホーム周辺を散歩したり、玄関を出ての外気浴で新鮮な空気に触れることを大切にしている。近所の方と出会ったら挨拶も交わしている。外食や仕出し弁当を注文しての外での食事の機会も設けている。外出先の希望をたずねてのドライブもあり、車窓から景色を楽しんでいる。また、戸外に外出する際は身障者用トイレの設置を確かめてからの外出支援である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因となることもあるので、原則として、現金の所持に関しては控えている。しかし、現金を持つことで安心感を得られる方やご家族の希望があれば、少額の現金を所持して頂くこともある。買物については、共に出かけ、本人の好みで選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族と話したいという要求があった場合は、時間帯を考慮して、電話にて話していただくように支援している。また、ご家族様から届いた年賀状やお手紙は本人に渡し、部屋に飾るなどして大変喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が高台に位置しており、ホールの窓からは山や田畑、街並みが一望でき、十分に季節を感じることができる。季節に応じて、玄関やホールの装飾を変えたり、四季を感じられるような工夫をしている。夏の間、日当たりが良すぎる部屋においては、ブラインドやよじず、すだれなどにより、日光調節を行っている。	リビングからは素晴らしい外の景色を楽しむことができ、テーブルやソファの配置を工夫している。食事時には対面式の台所から調理の匂いや音もして家庭での食事準備を思わせる。廊下の手すりは、生活リハビリの運動にも活用できる。どの空間も清掃が行き届き、特有害な匂いも無く、清潔感がある。窓を開けての換気や感染症防止のための消毒は、毎日こまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルやソファをいくつかに分けて配置し、気に入った場所で各々過ごされている。気の合う方同士でおしゃべりをされたり、思い思いに過ごしてもらえるように、居心地の良い空間づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや嗜好品の持ち込みは奨励しており、写真立てやカレンダー、仏壇、ソファなどを持ち込まれている。居室を思い思いに装飾して頂き、本人が居心地よく、安心して過ごせるスペースとなるように、ご家族と共に工夫している。	どの居室もその人らしく、落ち着いて暮らせるような心配りである。馴染みの物や好みの品などの持ち込みに特に制限は無く、家族の協力を得ながらの各居室内の構成になっている。趣味の吟詠テープやプロ野球のスクラップブック、趣味の作品を持ってきている利用者もある。衣服など、本人の好みの物を一緒に買い物に行くこともある。居室には家族も宿泊も出来る。安全のための低床ベッドの導入も検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダー、見やすい時計を設置し、日時、曜日の確認できるようにしている。各居室の入り口には表札を掲示し、トイレ、浴室にもわかりやすいように目印をつけている。夜間帯でもトイレの電気はつけるなど、随所に目印を設置し、混乱を防ぐような環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない